

苫小牧東部開発新計画の進め方について【第2期】

平成20年12月17日

国土交通省北海道局

1 はじめに

苫小牧東部地域の開発(以下「苫東開発」という。)は、北海道総合開発計画において、重要な施策として位置づけられており、平成7年8月に「苫小牧東部開発新計画」(以下「新計画」という。)を策定し、2020年代における苫東開発の全体構想を明らかにしたところである。

平成9年3月には、苫東開発を効率的に推進するため、「苫小牧東部開発新計画の進め方について」(以下、「旧進め方」という。)を策定し、段階的な開発の具体的な方向付けを行った。

その後、平成11年7月には、借入金に依存しない新たな株式会社苫東が設立され、苫東開発推進関係機関等によるそれぞれの役割分担の中で、旧進め方に基づき所要の施策を進めてきたところである。

2 目的

苫小牧東部地域(以下「苫東地域」という。)が位置する北海道は、北米と東アジアとを結ぶ線上に位置し、ロシア極東地域にも隣接している。また、日本海側と太平洋側のそれぞれに港湾を有し、その間に空港や工業団地などの基盤の集積が存在している。これらの地理的優位性を活かし、北米及び東アジア各地域との一層迅速で円滑かつ低廉な物流を推進することで、東アジア地域の成長と活力を取り込んでいく産業群の形成を図ることが重要である。

特に、苫東地域は、苫小牧港、新千歳空港に近接する広大かつ開発可能性の高い貴重な空間であり、また自然環境にも恵まれている。従って苫東地域において、これらの開発可能性を最大限活用し、総合的な経済発展基盤を創出することは、我が国全体及び東アジア地域の成長と活力を取り込んでいく産業群の形成を図ることを目指す北海道の発展に寄与するものである。

苫東地域では、以上の観点を踏まえ、これまでの産業集積を活かした幅広い産業開発を

進めるとともに、新たな成長産業やプロジェクトの導入に向けた各般の施策を総合的、計画的に展開するための取組を戦略的に推進することが重要である。

本「進め方」は、苫東開発推進関係機関等によるそれぞれの役割分担の中で、「旧進め方」に引き続き今後の段階的な開発の具体的な方向付けを行うものである。

3 基本の方針

苫東開発の推進にあたり、平成 15 年 11 月に有識者による苫小牧東部地域開発検討会が設置され、新計画の策定時から実施された施策について検証を行い、今後の苫東開発の方向性について検討が行われてきたところである。

これらの経緯を踏まえ苫東開発の基本的な方針として、苫東地域が 21 世紀の世界と日本に貢献できるよう、東アジアをはじめとする世界の潮流の変化を的確にとらえ、国際競争力のある基盤づくりを目指す。また、国民や北海道民の便益の向上やその安全・安心な暮らしに貢献し、さらに環境の保全に資するような分野に苫東地域が活用されるよう努める。とりわけ開かれた競争力のある北海道の実現に向け、幅広い産業開発を進めるとともに、東アジア地域の急速な成長を地域経済発展の好機ととらえ、東アジアや世界と競争し得る成長期待産業等の育成及びこれに向けた戦略的な条件整備を推進する。

苫東地域の有効活用を具体的に進めていくため、特区制度などの活用や新たな開発手法等も勘案しながら、優先的に開発を推進する区域を設定し、開発の中心となるプロジェクト事業を定めて導入を推進する。

産業機能については、これまで苫東地域において立地が進んできた自動車関連産業やリサイクル関連産業を始めとする既存立地分野の集積を促進するほか、バイオエネルギーや自然冷熱エネルギーなど、地域の特性を活かした新たな産業を育成するとともに、燃料電池関連産業など今後発展が見込まれる産業等の早期導入を促進する。また、産業活動の支援、特区制度の活用等により、企業立地のインセンティブを高めるなど立地環境の向上に努める。

研究開発機能については、北海道開発で培われた技術を活用した特色ある研究開発を展開するなど、研究開発基盤の形成を図る。また、リサイクル関連産業、バイオエネルギーや自然冷熱エネルギーなどの分野における産業開発や研究開発を積極的に行い、地球環境の保全や循環型社会の形成の寄与に努める。

基盤整備については、引き続き、陸・海・空の交通ネットワークの充実及び安全・安心の確保を図ることとし、とりわけ国際競争力を高めるための物流ネットワーク機能の強化を推進する。また、その整備に当たっては、景観やアメニティに配慮するとともに、開発の熟度に対応した整備と先行的整備との均衡を図り、投資効果の早期実現など投資の効率化に留意しながら計画的に推進する。

環境保全への適正な配慮については苦東地域として一体的に行うこととし、開発に伴う大気汚染物質、温室効果ガスの排出抑制など環境負荷を極力少なくするとともに、緑や湖沼などの多様で豊かな自然環境の保全などを通じて、苦東地域における自然と共生した良好な環境の保全に十分配慮した開発を行うこととする。

なお、産業機能や研究開発機能、居住・生活機能等を備えた複合的な開発の実現に当たっては、産業機能の強化を重点的に進め、研究開発機能、居住・生活機能等の展開につなげる。

「進め方」の実施にあたり、苦東開発推進関係機関等が緊密な連携を図り、フォローアップ等による評価・検証を行い、それぞれの機能と役割に即した施策を行う。

4 展開方向

(1) 優先的に開発を推進する地区

既に企業立地や土地造成、基盤整備が比較的に進んでいる柏原台地及びその周辺地区、遠浅地区、臨海低地部等の開発を優先的に推進することとし、それぞれの地区における、複合的な開発に対応した各種機能及び基盤整備は、以下の方向で展開する。ただし、居住・生活機能については、産業空間の展開に応じ推進されることを想定し、苦小牧市域及びその周辺地域における住宅需要の動向等を勘案しつつ、日照など生活環境の保全に十分配慮し、その展開を図ることとする。また、その他の地区における企業誘致等については、新計画との整合性が確保されるよう十分留意する。今後の産業構造の変化や技術革新等に応じて新たな展開が見込まれる産業・プロジェクトの中で、苦東地域の優位性を活かせる分野については、その実現に向け積極的に調査・検討を行うこととする。

1) 柏原台地及びその周辺地区の展開方向

当地区は、海外との玄関口となる新千歳空港への近接性、主要都市や拠点的空港・港湾

とを連絡する高規格幹線道路等の整備の進展による優れた地理的優位性を有し、苫東地域の中でも高い開発可能性を有する区域であり、自動車関連産業を始めとする幅広い生産機能や研究開発機能、物流機能の強化などを総合的に展開し、中心的業務地区の形成を図る。

自動車関連産業を始めとする幅広い産業開発の促進

当地区については、自動車関連産業を始めとして、一般機械器具製造業や化学工業のほか、燃料電池関連産業等、幅広い産業開発を進める。

特に、自動車関連産業については、地元協議会が設立され、自動車関連産業の集積に向けた動きが活発化してきていることから、これとの連携を密にしながら、重点対策業種として位置づけて企業誘致活動を積極的に展開する。また、当地区を拠点として関連部品産業の集積を進めるとともに、自動車関連研究施設等の立地を促進するほか、自動車一貫生産工場の立地に向けて取り組む。

研究開発基盤の形成

研究開発基盤の形成には、技術革新を誘引するような環境づくりが必要であり、立地した企業と大学等研究機関との交流を進める産学連携の取組や産業開発に関連した研究施設の誘導など、苫東地域や北海道にある資源を活かしながら、その充実強化を図る。

大規模災害に備えた街づくり

広大な平地が存在し、苫小牧市街地に隣接するとともに空港、港湾等の交通機能も充実している苫東地域が大規模災害における避難者の受け皿にもなり得るための検討や情報発信に取り組む。

内陸部物流拠点の形成

既存の産業集積との関連や陸・海・空の交通結節点に位置する地理的条件を活かし、流通産業の立地を促進し、内陸部における物流拠点の形成を図る。

2) 遠浅地区の展開方向

当地区は、海外との玄関口となる新千歳空港に至近な位置にあることを活かして、柏原台地地区と連携を図るとともに、隣接している遠浅市街地との一体性に配慮しつつ、臨空性を活かした生産機能の展開を図る。また、居住機能等については、産業空間の展開に応じ推進されることを想定し、周辺地域における住宅需要の動向等を勘案しながら、その展開を図る。

3) 臨海低地部等の展開方向

臨海部に展開する広大な低地部については、苫小牧港東港区の国際海上コンテナ取扱等の物流機能を活用し、特に東アジア地域を視野に入れた物流需要や産業・研究活動等の展開に対応した土地利用を図る。

中核的産業の早期導入

立地が進んでいるリサイクル関連産業のさらなる導入を進めるとともに、今後の成長が期待され、新たな生産拠点の展開が見込まれる地域資源を活かした環境・エネルギー関連産業など、中核的な産業を始めとする幅広い産業やプロジェクトの導入に努める。

資源・エネルギーの備蓄・供給機能等の整備

大都市圏のオフィスビル用に冷房熱源を供給する雪氷輸送物流システム事業の導入を図るとともに、冷涼な気候など立地特性を活かし、流通システムの動向等を勘案しつつ、自然冷熱を活用した農産物の貯蔵・備蓄施設の立地に向けて取り組む。

また、石油製品の備蓄機能を確保するとともに、新エネルギーの供給機能の強化を図るため、バイオ燃料関連産業の導入を図り、さらに、その関連研究施設や液化天然ガス関連施設の立地に向けて取り組む。

臨海部における物流拠点の形成

苫小牧港東港区を利用する物流需要に対応する幹線道路の整備及び国内外と結ばれた高度な情報通信インフラの整備や活用を図り、多様な流通産業の立地を促進し、臨海部における物流拠点の形成を図る。また、国際総合物流ターミナルゾーンの形成に向けて取り組む。

航空機関連産業の誘致

航空機関連産業については、今後成長が期待され、空港と港湾に近接して広大な空間を有する苫東地域の優位性を発揮することができる分野であり、地元研究会等の取組も活発であることから、これとの連携を密にしながら、航空機関連産業の立地に向けて取り組む。

(2) 基盤整備

国際競争力を高めるための物流ネットワーク機能の強化を図るため、苫小牧港東港区については、貨物需要などの要請を的確に把握し、既存の施設を有効活用しつつ、輸送船舶

の大型化の進展や内外貿ユニットロード及びバルク貨物の増加等の多様な海上輸送需要への対応を進めるとともに、西港区と一体となって、我が国内外を結ぶ流通拠点となる港湾として、多様な機能が集積する総合的な港湾機能の形成を図る。

また、道内の主要都市や拠点的空港・港湾とのアクセス強化を図る基幹的なネットワークの整備を進めるほか、苫東地域の諸活動を支援する域内道路については、各種機能等の展開に応じた整備が重要である。

情報通信については、産業活動等を支援するため、国内外と結ばれた高度な情報通信インフラの整備を進める。

安全・安心の確保については、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災対策推進地域の指定があったこと等を踏まえ、地震防災対策等を推進する。また、安平川等の河川においては、河川環境に配慮して改修を進め、治水安全度の向上を図る。

工業用水道については、開発に応じた需要量を供給するため、苫小牧地区工業用水道の活用などによって対応するものとする。

産業活動等に伴う上下水道については、開発の進展に応じて整備するとともに、上水道の将来の恒久的な水源確保について配慮することとする。

廃棄物処理については、その有効活用に努めるとともに、既存の機能や導入機能の配置を考慮しながら、適切な処理施設の配置及び処分地の確保を図る。

(3) 自然と共生するアメニティに満ちあふれた立地環境づくり

苫東地域は、良好な自然が残された樹林地、湖沼群等を有しており、これらを保全し、苫東地域全体に自然と共生するアメニティに満ちあふれた環境を創出することは、苫東地域の付加価値を高め、企業立地の促進等に寄与する。

このため、平成19年6月に苫東地域内で開催された全国植樹祭を契機に、緑化関係団体、NPO、企業などの様々な取組と連携し、多様で豊かな自然環境の保全や緑地の多角的な利用を促進するとともに、親水空間等の整備を図るなど、自然と共生するアメニティに満ちあふれた立地環境づくりに努める。

また、企業の立地状況に応じて、地域内に適正規模の緑地、公園を分散的に配置する。

5 「進め方」の実施

国が計画推進の中心的な役割を果たし、地方公共団体や株式会社苫東等の各種団体が積極的に参加する苫東開発の推進体制に基づき、それぞれの機能と役割に即した主体性を発揮しながら相互に協力、協調し、緊密な連携を図る。

広範多岐にわたる施策の展開にあたっては、透明性を確保するとともに、P D C Aサイクルなどによる評価を行い必要に応じて見直しを行う。

さらに、各機能の展開や検討に係るタイムテーブルの作成、プロジェクト導入推進や企業誘致強化に係る具体的検討などを行う。

なお、苫東開発に当たっては、周辺地域はもとより道央地域との広域的な連携を図りつつ、これらの地域において構想される各種プロジェクトとの一体的な整備を推進することにより、相乗効果や融合効果が最大限に発揮できるよう努める。

6 対象期間

この「進め方」の対象期間はおおむね10年間とする。

付記

この「進め方」に記載された産業・プロジェクト、期間等について弾力的運用又は必要に応じた見直しを図るものとする。

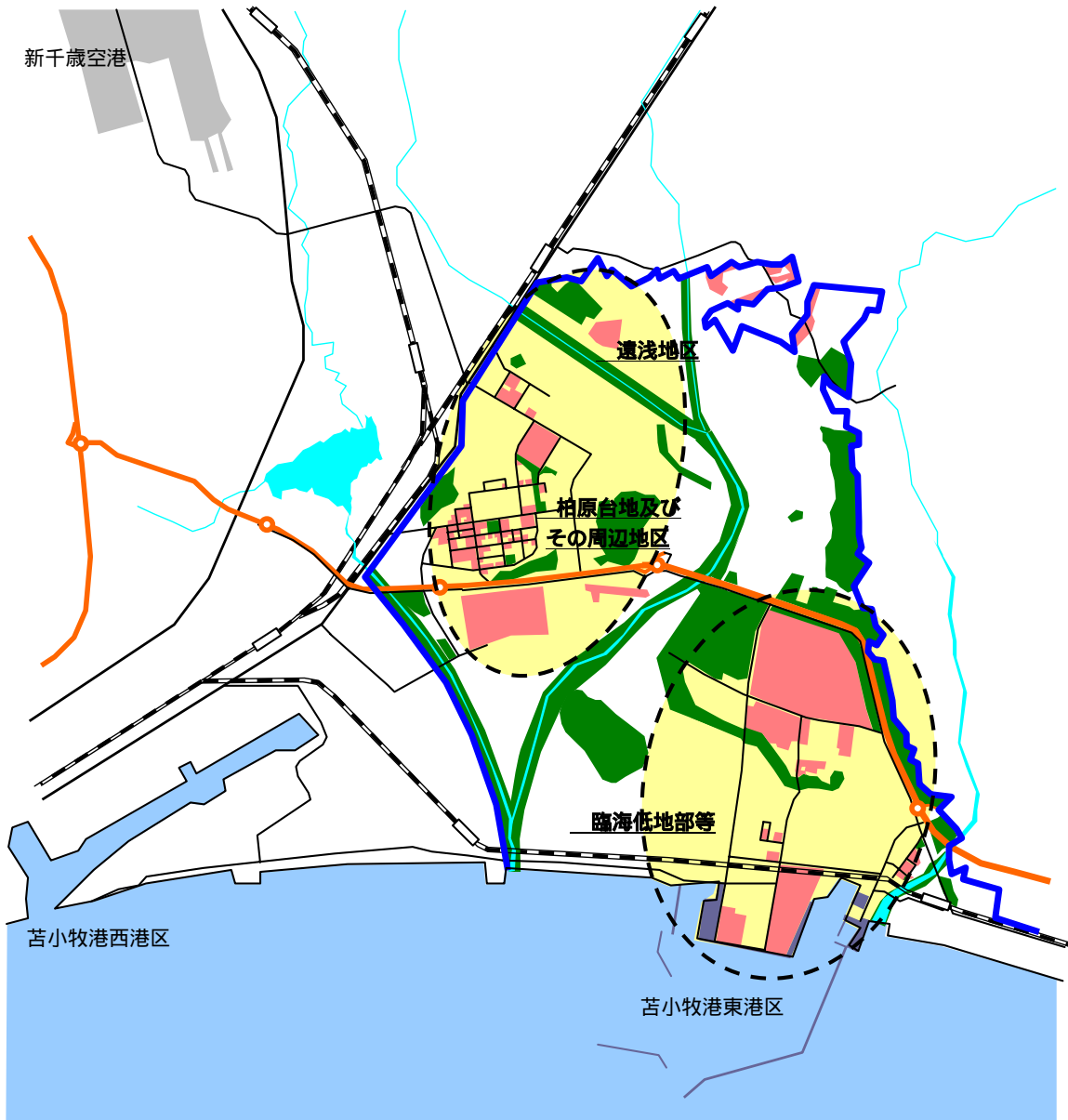
開発可能規模










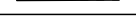
産業・分野	用地面積 (ha)	新規の産業・プロジェクト	
		先導的な導入を 図るもの	諸課題はあるものの 実現に向け積極的に 取り組むもの
【産業関連】	1,900		
・自動車関連分野		自動車部品工場	自動車一貫生産工場
・リサイクル分野		リサイクル関連産業 (使用済自動車、プラスチック等)	
・資源・エネルギー分野		雪氷輸送物流システム バイオ燃料関連産業	自然冷熱を活用した農 産物貯蔵・備蓄施設 燃料電池関連産業 液化天然ガス関連施設
・航空機関連分野			航空機関連産業
・その他の諸産業		その他の諸工業 輸送・貨物関連	総合物流関連
【研究開発関連】	150	その他の諸工業関連 研究施設	自動車関連研究施設 航空機関連研究施設 バイオ燃料関連研究施設
【都市開発(居住・生活)関連】	200		大規模災害の避難者の受け 皿にもなり得る街づくり
小 計	2,250	(300)	(950)
【その他の土地利用】	3,700	道路、河川、港湾、公園、緑地等	
合 計	5,950		

注：括弧内の面積は、2,250haの内数である。

数値の内訳については想定である

苫小牧東部地域 優先的開発推進区域 概略図



	苫小牧東部地域
	優先的開発推進区域
	既存立地
	既存港湾施設
	緑地
	河川
	高規格幹線道路
	舗装道路(苫東区域)
	主要な道路(区域外)
	鉄道